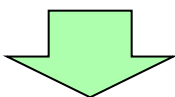


松山市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年7月) ※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 江戸時代より城下町として栄えるとともに日本最古と言われる道後温泉を有し、商業や観光産業の集積地として発展。
- 核店舗の撤退や郊外大型店舗の立地等により、広域商業核としての機能が衰退し、賑わいが失われつつある。
- 平成19年4月に坂の上の雲ミュージアムがオープンしたが、市内の主要観光施設を訪れる観光客は引き続き減少。



○歩行者通行量

H9: 217,661人 → H19: 170,503人
(▲22%)

○小売年間商品販売額

H9: 331,284百万円 → H19: 263,982百万円
(▲20%)

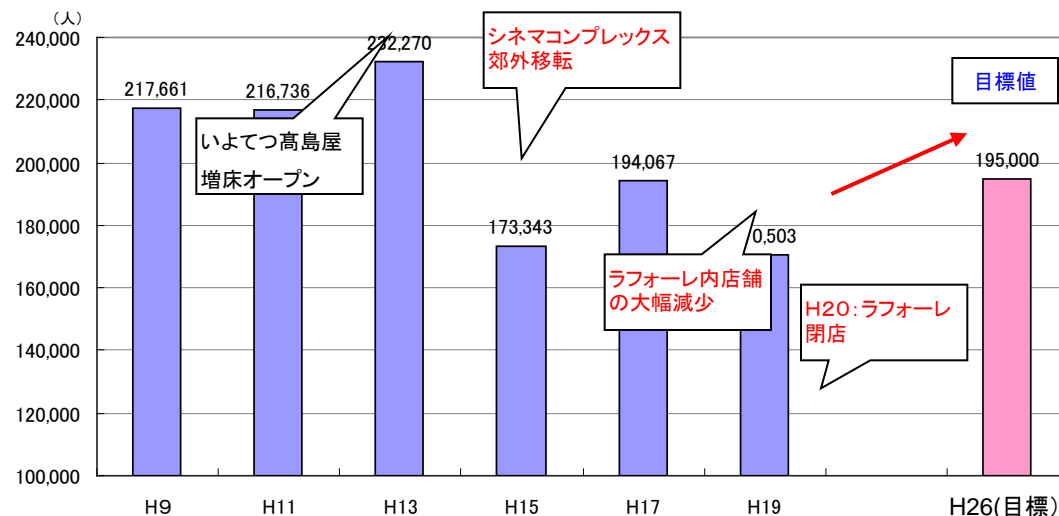
○市内主要観光施設の入込み客数

H9: 1,549千人(4施設)
→ H19: 1,348千人(5施設) (▲13%)

【目標】

目標	指標	現況値 (H19)	目標値 (H26)
城下町ならではの賑わいのあるまち	歩行者通行量 (休日・8地点)	170.5千人	195千人
	路面電車の年間乗車人数	7,287千人	7,400千人
「坂の上の雲」のまちづくりとまちなか回遊を活かした観光交流のまち	中心市街地内の観光客数(5施設)	1,348千人	1,600千人
便利で、楽しい商業のまち	小売年間商品販売額	263,982百万円	264,000百万円

【歩行者通行量の動向と数値目標】



中央商店街における新たな商業核施設の創出や、道後温泉や松山城などの歴史的・文化的観光資源を活用しつつ、路面電車によるまちなか回遊促進を図ることにより、にぎわいのある商業のまち・観光交流のまちを実現する。

松山市中心市街地活性化基本計画の事業概要

中心市街地
約450ha

郊外電車(伊予鉄高浜線)

JR予讃線

路面電車

坊っちゃん列車
(路面電車)

郊外電車(伊予鉄郡中線)

郊外電車(伊予鉄横河原線)



道後温泉本館

道後温泉

道後温泉駅

フジグラン松山商業床増床

古町駅

JR松山駅

松山城・堀之内

大街道駅

ラフォーレ原宿・松山跡地商業ビル建設

銀天街内空き店舗への「ZARA」入居

銀天街商店街

松山市駅

大街道商店街

愛媛県立中央病院



観光交流のまち

○観光資源の戦略的な活用

- ・NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」放映の機会を捉え、坂の上の雲ミュージアムなどの地域資源への観光客誘致を図る**関連イベント等の集中展開事業「まつやまエポック」**を実施。
- ・道後地区の旅館と大手旅行会社がタイアップした**誘客キャンペーン**を実施。



坂の上の雲ミュージアム

○中心市街地内での回遊性の向上

道後温泉や松山城など複数の観光施設における「**回遊割引パス**」を創設し、**公共交通の乗り放題パスの普及促進**と併せて、来街者のまちなかでの回遊を促進。



オースタムフェスティバル

にぎわいのある商業のまち

○中央商店街等における新たな魅力ある商業施設の創出

商業の中心地である中央商店街(大街道商店街・銀天街商店街)等において、**ラフォーレ原宿・松山跡地商業ビル建設**や**銀天街内空き店舗への海外有名ブランド「ZARA」入居**など、人々を惹きつける新たな商業床を誘致。古町駅周辺においても**フジグラン松山の商業床増床**を行う。



ラフォーレ原宿・松山跡地現況



フジグラン松山

○イベント等による商業施設の連携・利便性向上

- ・道後の湯上がり朝市や松山城下の門前市などの**商業イベントの共同開催**や**販促事業の連携**により商業の一体的な賑わいを創出。
- ・**中央商店街カラー舗装のリニューアル**や**アーケード内景観等のまちづくりルール策定**等による商業空間の回遊性向上。



城下門前市

にぎわいのある住みやすいまち

○愛媛県立中央病院整備運営事業

路面電車によるアクセスが可能な**県立中央病院を基幹病院として再整備**。高度医療や救急医療機能を強化し、暮らしやすい中心市街地を創出。



中央病院整備イメージ図
(実際とは異なる場合がある。)

○JR松山駅周辺の利便性向上

- ・JR松山駅周辺における**土地区画整理事業**及び**連続立体交差事業**により交通結節機能強化、魅力ある都心居住環境の創出を図る。
- ・**路面電車のJR松山駅結節**及び**西側延伸**を図り、郊外部から中心市街地への回遊性向上を図る。



駅周辺整備イメージ図
(完成は計画期間終了後)

現路面電車駅

路面電車駅をJR松山駅に結節

西側延伸